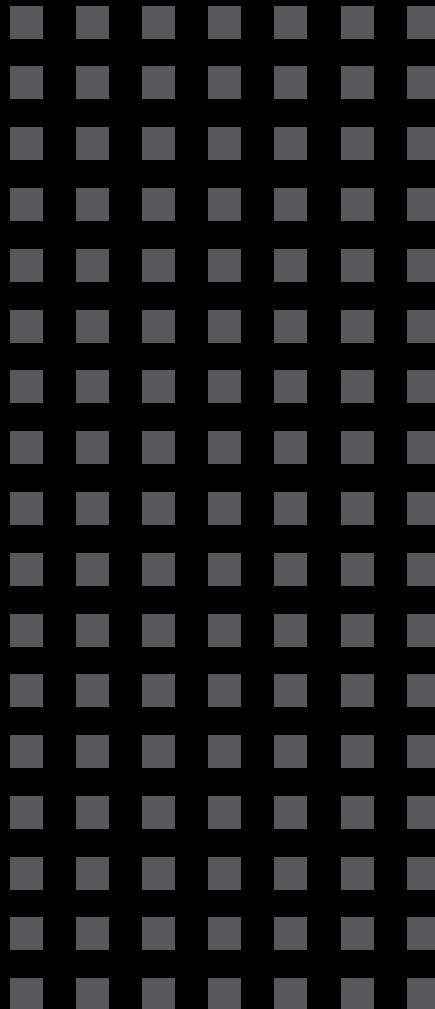


D I G I T A L P I A N O

P - 9 5 B / P - 9 5 S

取扱説明書



安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願ひいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

 	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
   	～しないでくださいという「禁止」を示します。
  	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。



この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。



この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源 / 電源アダプター



電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



電源は必ず交流 100V を使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



電源アダプターは、必ず指定のもの（29 ページ）を使用する。

異なる電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

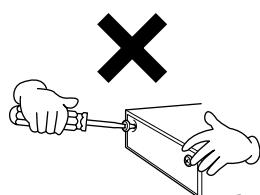
感電やショートのおそれがあります。

分解禁止



この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

火に注意



本体の上にろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常ににおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



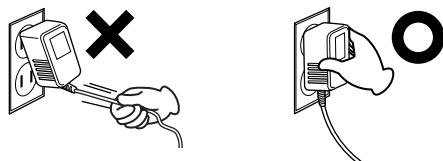
たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



この機器を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



指定のスタンドを使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。

本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴力障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



本体のすき間に手や指を入れない。

お客様がけがをするおそれがあります。



パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。



本体の上にのったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。

聴覚障害の原因になります。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。電源スイッチを切った状態の消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障や損傷、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱い / お手入れに関する注意

- ・テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- ・直射日光のある場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、また、ほこりや振動の多いところで使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
- ・本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。
- ・手入れするときは、乾いた柔らかい布、または水を固くしぼった柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。

■ データの保存に関する注意

- ・一部のデータは本体内部のメモリーに保存されます。電源を切ってもデータは保持されますが、故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、コンピューターに保存してください(24ページ)。

■ データの著作権に関するお願い

- ・ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどご配慮をお願いします。
- ・この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を超えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- ・この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- ・この取扱説明書では、P-95BとP-95Sを「P-95」と表記します。
- ・MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- ・その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

このたびは、ヤマハ電子ピアノP-95B/P-95Sをお買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。P-95B/P-95Sの優れた機能を十分に生かして演奏をお楽しみいただくため、本書をお読みください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管してください。

特長

自然な弾き心地を実現したGHS(グレードハンマースタンダード)鍵盤

グランドピアノを探求して開発されたGH(グレードハンマー)鍵盤の基本理念をそのままに低音部と高音部とでは微妙に違う鍵盤タッチを再現しました。豊かで自然な弾き心地をつくりだしています。また、GHS鍵盤により楽器本体の軽量化を実現しました。

フルコンサートグランドピアノの音を使用 (AWMステレオサンプリング)

この楽器は、ヤマハ独自のサンプリング音源システム「AWMステレオサンプリング」による豊かな音色を実現しています。

ピアノ音色のうち、GRAND PIANO 1、2の音色は、フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。E.PIANO 1、2の音色は、鍵盤を弾く強さに応じて複数の波形をサンプリングしています(ダイナミックサンプリング)。

付属品(お確かめください)

- | | |
|---|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 保証書 | <input type="checkbox"/> 取扱説明書(本書) |
| <input type="checkbox"/> ピアノで弾く名曲50選(楽譜集) | <input type="checkbox"/> 電源アダプター |
| <input type="checkbox"/> フットスイッチ | <input type="checkbox"/> 譜面立て |
| <input type="checkbox"/> ユーザー登録のご案内* | |

* ユーザー登録の際に必要となるプロダクトIDが記載されています。

目次

安全上のご注意	2
---------------	---

準備編

特長	6
付属品(お確かめください)	6
各部の名前と機能	8
ご使用前の準備	9
電源を入れる	9
音量(ボリューム)を調節する	9
ペダルを接続する	10
ヘッドフォンを使う	11
譜面立てを使う	11

本編

デモ曲を聞く	12
ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く	13
メトロノームを使う	14
拍子を設定する	14
テンポを調節する	14
音量を調節する	15
音色を楽しむ	16
音色を選ぶ	16
2つの音色を重ねる(デュアル)	17
音に残響を付ける(リバーブ)	18
キー(調)を変える(トランスポーズ)	19
音の高さの微調整(チューニング)	19
タッチ感を変える	20
演奏を録音する	21
演奏を録音する	21
録音した演奏を聞く	22
録音した演奏データの設定を変更する	23
MIDI(ミディ)機器の接続	24
MIDIって何?	24
コンピューターと接続する	24
コンピューターと楽器間でバックアップデータを送受信する	25
初期設定に戻す	25
MIDI(ミディ)に関する設定	26
MIDI送信/受信チャンネルの設定	26
ローカルコントロールオン/オフの設定	26
プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定	27
コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定	27
困ったときは	28

付録

仕様	29
別売品のご紹介	29

クリックオペレーションガイド	30
鍵盤を使って操作する機能を一覧できます。	

電子マニュアル

ヤマハマニュアルライブラリーのウェブサイトからご覧いただけます。
インターネットに接続して以下のウェブサイトを開き、「モデル名から検索」テキストボックスにモデル名(「P-95」など)を入力して「検索」をクリックします。

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/>

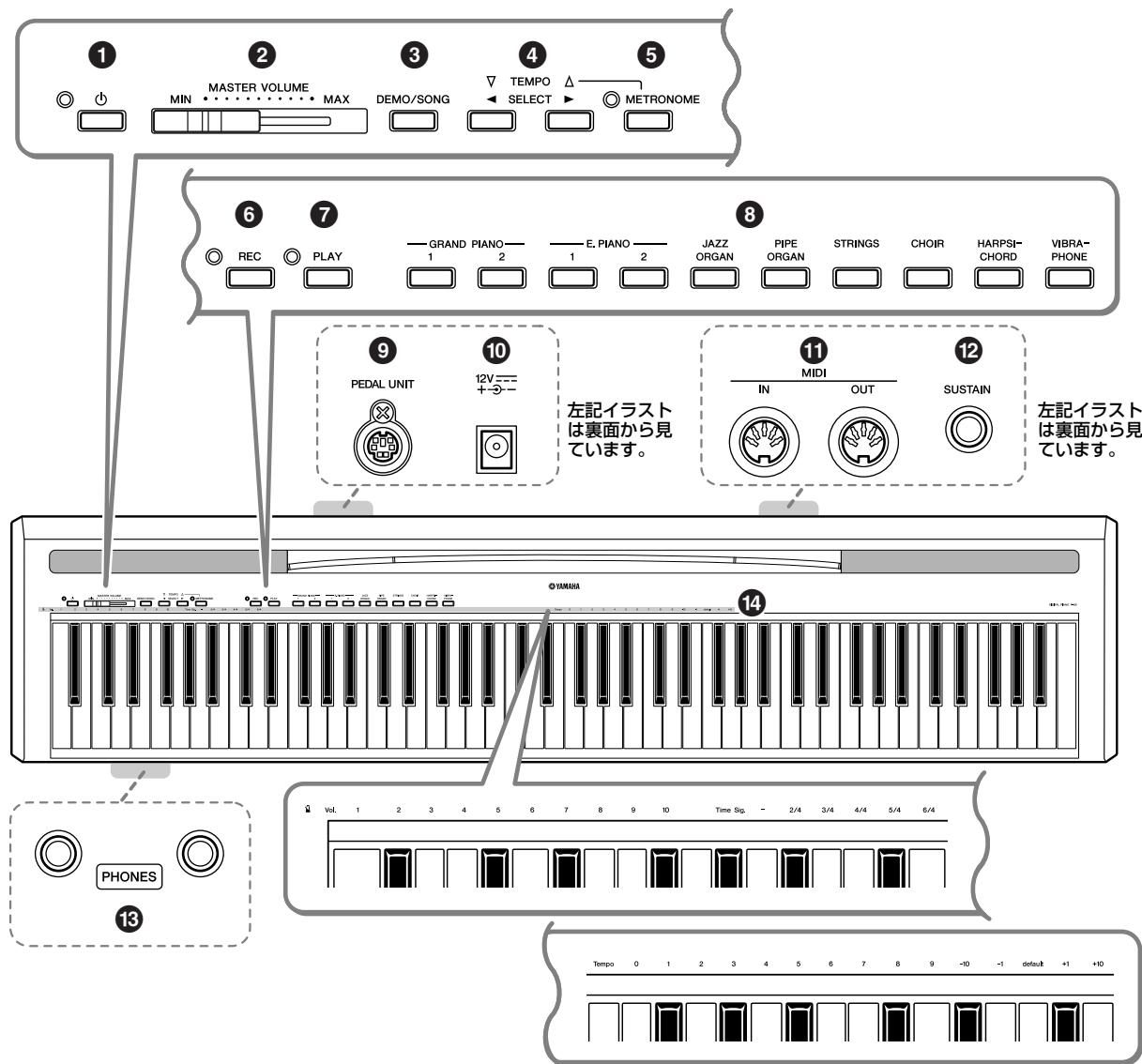
・データリスト

MIDIデータフォーマットやMIDIインプリメンテーションチャートが掲載されています。

・MIDI入門

MIDIについての詳細や使い方を説明しています。

各部の名前と機能



① [電源スイッチ] 9ページ
電源のオン/オフを切り替えます。

② [MASTER VOLUME]スライダー 9ページ
音量を調節します。

③ [DEMO/SONG]ボタン 12、13ページ
音色ごとのデモ曲やピアノ50曲(プリセットソング)を聞くことができます。

④ TEMPO [▼][△]ボタン
テンポ
セレクト
SELECT [◀][▶]ボタン 12、13ページ
音色ごとのデモ曲やピアノ曲を再生中にこのボタンを押すと次の曲または前の曲に移動できます。
また、テンポの変更もできます。

⑤ [METRONOME]ボタン 14ページ
メトロノームを使用して正しいテンポで練習できます。

⑥ [REC]ボタン 21ページ
演奏を録音できます。

⑦ [PLAY]ボタン 22ページ
録音した演奏を再生します。

⑧ 音色ボタン 16ページ
グランドピアノをはじめとした10種類の音色をお楽しみいただけます。また、2つの音色を重ねて使うことができます。

⑨ [PEDAL UNIT]端子 10ページ
別売のペダルユニットLP-5Aを接続できます。

⑩ DC イン端子 9ページ
付属の電源アダプターを接続します。

⑪ MIDI イン/アウト端子 24ページ
MIDI機器を接続する場合に使います。

⑫ [SUSTAIN]端子 10ページ
付属のフットスイッチを接続します。また、別売のフットペダルFC3やフットスイッチFC4も接続できます。

⑬ [PHONES]端子 11ページ
ヘッドフォンを接続します。

⑭ メトロノーム設定 14ページ
メトロノームの設定に使う鍵盤を示しています。

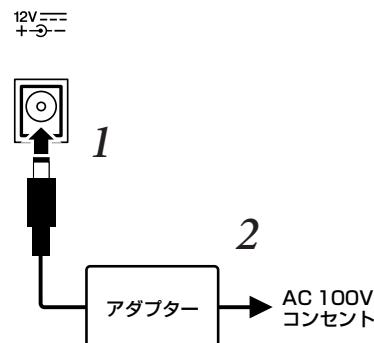
ご使用前の準備

電源を入れる

1 付属の電源アダプターのDCプラグをリアパネルのDC IN端子に差し込む

⚠ 警告

電源アダプターは、必ず指定のもの(29ページ)をご使用ください。他の電源アダプターの使用は故障、発熱、発火などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、十分にご注意ください。



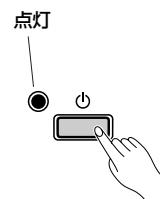
2 付属の電源アダプターのACプラグを家庭用(AC 100V)コンセントに差し込む

⚠ 注意

長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。感電や火災、故障の原因になることがあります。

⚠ 注意

電源は必ずAC100Vを使用してください。



3 本体パネル左の[**○**]電源スイッチを押す

電源が入り、[**○**]電源スイッチ左上の電源ランプが点灯します。

電源を切るときは、もう一度[**○**]電源スイッチを押します(1秒)。

⚠ 注意

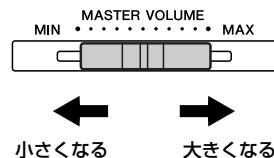
電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。楽器を長時間使用しないときは必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

音量(ボリューム)を調節する

本体パネル左の[MASTER VOLUME]スライダーで調節します。実際に鍵盤を弾いて音を出しながら、音量を調節してください。

MASTER VOLUME=全体の音量

[MASTER VOLUME]スライダーで[PHONES]端子の出力レベルも調節できます。



ペダルを接続する

[SUSTAIN] 端子(サステインペダル)

電源を切った状態で付属のフットスイッチを接続します。このペダルを踏んでいる間、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。

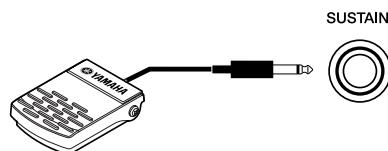
なお別売のフットペダルFC3やフットスイッチFC4、FC5も使用できます。FC3をご使用の場合はハーフペダル機能*を使用できます。

*ハーフペダル機能とは

ペダルを踏んで音が響きすぎたと感じたとき、ペダルを踏み込んだ状態から少し戻し響きを抑える(音の濁りを減らす)機能です。

フットスイッチ(サステインペダル)を踏んだまま楽器の電源を入れないでください。

フットスイッチを踏んだまま電源を入れると、オン/オフが逆になります。

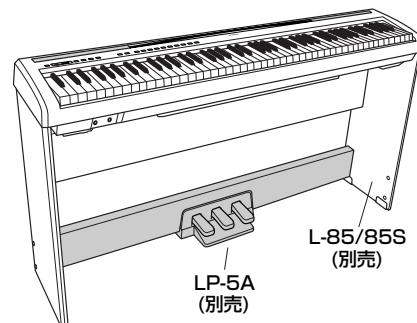
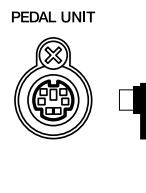


[PEDAL UNIT] 端子(ペダルユニット)

別売の3本ペダルユニットLP-5Aを接続できます。

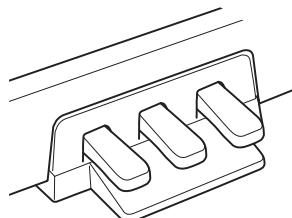
注記

ペダルユニットをご使用の場合は、必ず専用スタンドL-85/85S(別売)に取り付けてお使いください。



ペダルユニットの機能

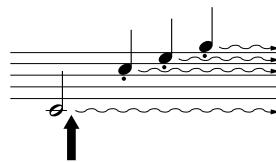
ペダルユニット(別売)には、右のペダル(ダンパーペダル)とまん中のペダル(ソステヌートペダル)、左のペダル(ソフトペダル)があります。これらはピアノ演奏で使われます。



右のペダル(ダンパーペダル)

このペダルを踏んでいる間、弾いた音を、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。

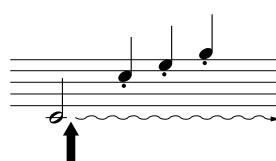
ペダルを踏み込むほど音が長く伸びます(ハーフペダル対応)。



ここでダンパーペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤とそのあと弾いた音すべてが長く響く

まん中のペダル(ソステヌートペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



ここでソステヌートペダルを踏むと、このとき押さえていた鍵盤の音だけが長く響く

左のペダル(ソフトペダル)

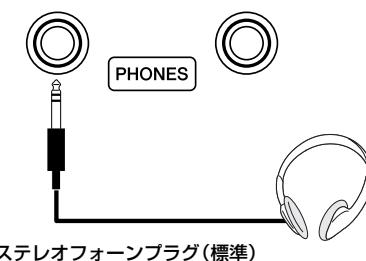
このペダルを踏んでいる間、ペダルを踏んだあとに弾いた音量をわずかに下げ、音の響きを柔らかくすることができます。(ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音には効果はかかりませんので、効果をかけたい音を弾く直前に踏みます。)

ヘッドフォンを使う

別売のヘッドフォンを[PHONES]端子に接続して使います。
ヘッドフォンを接続すると自動的にスピーカーから音が出なくなります。
[PHONES]端子は2つありますので、ヘッドフォンを2つ接続して2人で演奏を楽しむこともできます。
1本だけ接続する場合は、どちらの端子を使用しても構いません。

⚠ 注意

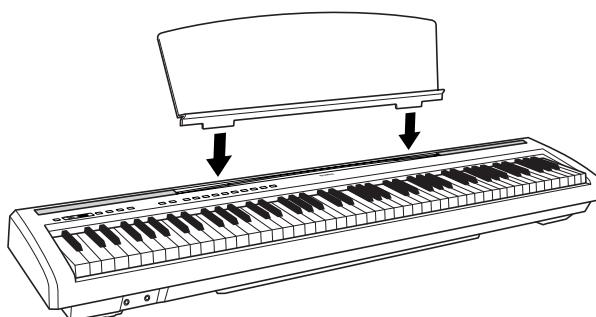
大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。
聴覚障害の原因になります。



ステレオフォーンプラグ(標準)

譜面立てを使う

本体パネルの溝に差し込んで使用します。



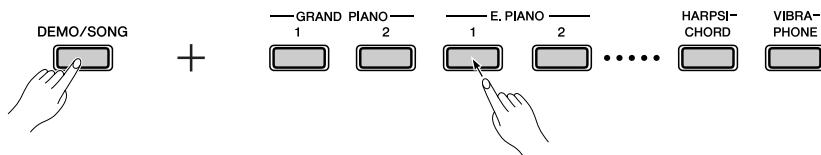
この楽器は、スピーカーが本体の底面に配置されています。机の上などに置いて使用しても、十分お楽しみいただけますが、より良い音でお楽しみいただくには、スタンド(別売)のご利用をおすすめいたします。

デモ曲を聞く

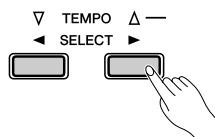
この楽器には、音色ごとに1曲ずつデモ曲が入っています。聞いてみましょう。

1 [DEMO/SONG] ボタンを押したまま、聞きたいデモ曲の音色ボタンを押す

デモ曲の再生がスタートします。その後、再生をストップするまで、音色ボタンの左から順にデモ曲が連続して再生されます。

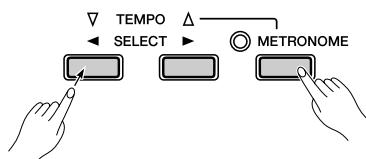


デモ曲の再生中にSELECT [<◀]/[▶]ボタンを押すと、他のデモ曲へ切り替えることができます。



また、再生中に他の音色ボタンを押すと、その音色のデモ曲が再生されます。

[METRONOME]ボタンを押したまま、TEMPO [▽]/[△]ボタンを押すと、再生中のデモ曲のテンポを変更できます。



●デモ曲

音色名	曲名	作曲者
PIPE ORGAN (パイオルガン)	オルガン小曲集 「神のひとり子なる主キリスト」 BWV.601	J. S. バッハ
HARPSICHORD (ハーピシコード)	チェンバロ協奏曲 第7番 BWV.1058	J. S. バッハ

上記デモ曲は、原曲から編集/抜粋されています。

上記以外の曲は、オリジナル曲です。© 2010 Yamaha Corporation

2 [DEMO/SONG] ボタンを押して、再生をストップする



音色の特徴をつかむには
「音色を選ぶ」(16ページ)をご覧ください。

[DEMO/SONG]ボタンのみを押した場合は、GRAND PIANO 1のデモ曲から順に再生されます。

デモ曲はMIDI送信されません。

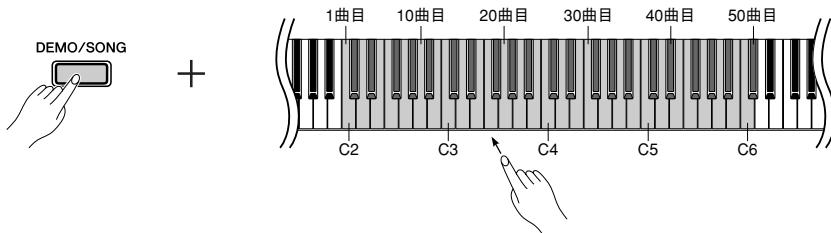
ピアノ50曲(プリセットソング)を聞く

この楽器には、音色のデモ曲の他にピアノ50曲の演奏データが入っています。付属の「ピアノで弾く名曲50選」の楽譜集には、ピアノ50曲の楽譜が掲載されていますので、ご活用ください。

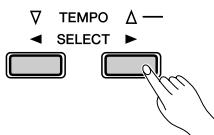
1 [DEMO/SONG]ボタンを押したままC2～C#6のどれかを押して、ピアノ曲を選ぶ

C2～C#6の鍵盤(以下参照)には50曲のピアノ曲が割り当てられています。

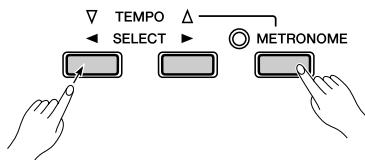
ピアノ50曲は、再生をストップするまで連続して再生されます。



ピアノ曲の再生中にSELECT [<◀]/[▶]ボタンを押すと、他のピアノ曲へ切り替えることができます。



[METRONOME]ボタンを押したまま、TEMPO [<▽]/[△]ボタンを押すと、再生中のピアノ曲のテンポを変更できます。



2 [DEMO/SONG]ボタンを押して、再生をストップする



他の曲を再生する場合は、操作1に戻ります。

ソングとは

この楽器では、演奏データを総称して「ソング(SONG)」と呼んでいます。デモ曲やピアノ曲も演奏データです。

曲の割り当ての詳細については、クイックオペレーションガイド(30ページ)をご覧ください。

再生に合わせて、自分で鍵盤を弾くこともできます。音色も変えられます。

リバーブは新しい曲を選んだり、連続再生で新しい曲がスタートしたりすると、その曲に合ったリバーブの種類になります。

ピアノ50曲(プリセットソング)は、MIDI送信されません。

メトロノームを使う

この楽器は、メトロノーム(ピアノの練習でよく使われる正確なテンポを刻む道具)を備えています。ご使用ください。

1 [METRONOME]ボタンを押す

メトロノームが鳴り出します。

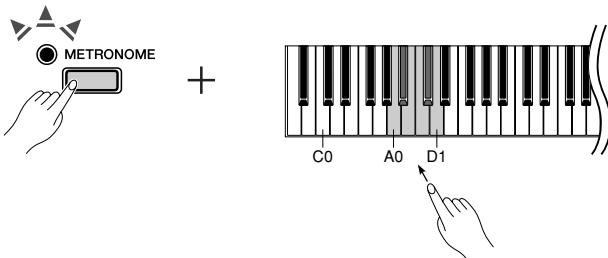


2 [METRONOME]ボタンを押して、メトロノームを止める



拍子を設定する

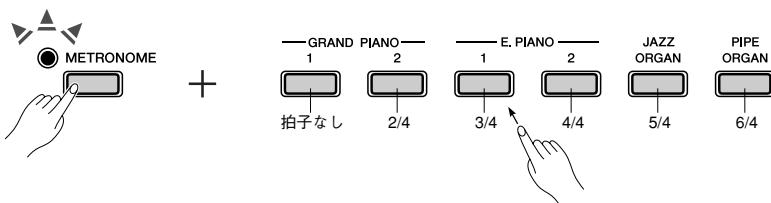
[METRONOME]ボタンを押したままAO～D1鍵盤のどれかを押します。
たとえば3/4(B0)に設定すると「チーンカチカチ」と鳴ります。
初期設定は拍子なし(A0)です。この場合すべての拍で「カチカチ」と鳴ります。



鍵盤	拍子
A0	拍子なし
A#0	2/4
B0	3/4
C1	4/4
C#1	5/4
D1	6/4

初期設定とは
本書では、初めて電源を入れたときの設定のことを「初期設定」と呼んでいます。

[METRONOME]ボタンを押したまま音色ボタンGRAND PIANO 1～PIPE ORGAN のどれかを押して拍子を設定することもできます。



テンポを調節する

メトロノームのテンポを32～280(1分間の拍数)の範囲で設定することができます。

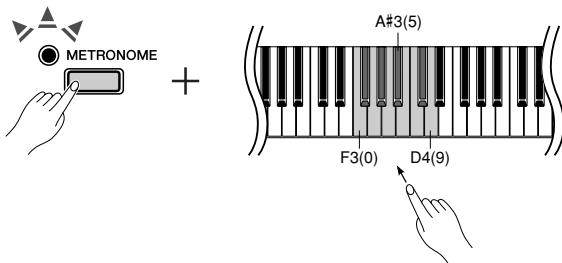
初期設定(メトロノーム)：120

テンポを数値入力する

以下の鍵盤にはそれぞれ数字が割り当てられています。

[METRONOME]ボタンを押したままF3～D4鍵盤のどれかを押して、3桁の数字を設定します。100の位から順番に設定します。

たとえば、テンポを95に設定したい場合は、[METRONOME]ボタンを押したまま、F3(0)、D4(9)、A#3(5)の順番で鍵盤を押します。



テンポを1ずつ上げる

[METRONOME]ボタンを押したままF#4鍵盤を押します。

テンポを1ずつ下げる

[METRONOME]ボタンを押したままE4鍵盤を押します。

テンポを10ずつ上げる

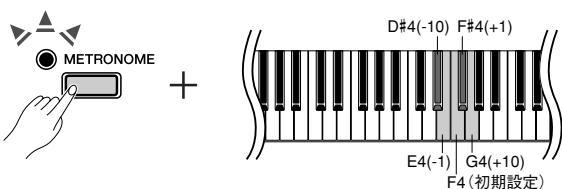
[METRONOME]ボタンを押したままG4鍵盤を押します。

テンポを10ずつ下げる

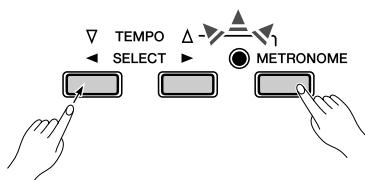
[METRONOME]ボタンを押したままD#4鍵盤を押します。

テンポを初期設定に戻す

[METRONOME]ボタンを押したままF4 鍵盤を押します。



また、[METRONOME]ボタンを押したままTEMPO [▽]/[△]ボタンを押して、テンポを1ずつ上げ下げすることもできます。



[METRONOME]ボタンを押したままTEMPO[▽]/[△]ボタンを同時に押すとテンポを初期設定に戻せます。

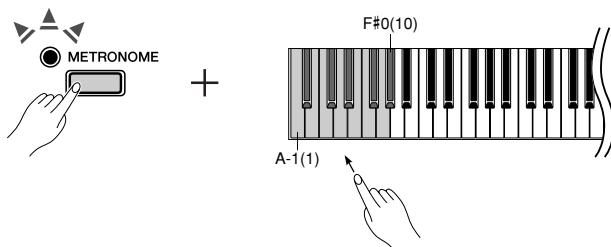
音量を調節する

メトロノームの音量を設定します。

[METRONOME]ボタンを押したままA-1～F#0鍵盤のどれかを押して音量を設定します。

右側の鍵盤を押すほど音量が大きくなります。

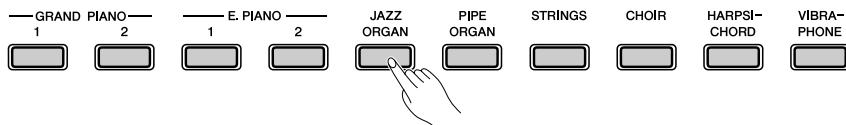
設定範囲：A-1(1)～F#0(10)
初期設定：D#0(7)



音色を楽しむ

音色を選ぶ

1 使いたい音色ボタンを押す



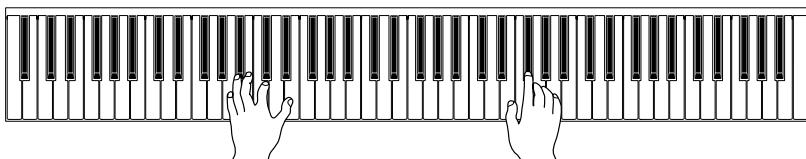
音色の特徴をつかむには
音色ごとのデモ曲を聞いてみて
ください。(12ページ)

音色を選ぶと、その音色に合っ
たリバーブ(18ページ)が自動的
に選ばれます。

音色名	音色紹介
GRAND PIANO 1 (グランドピアノ1)	フルコンサートグランドピアノからサンプリングしました。クラシックはもちろん、どんなジャンルのピアノ曲にも合います。
GRAND PIANO 2 (グランドピアノ2)	明るい響きを持ったクリアなピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
E.PIANO 1 (エレクトリックピアノ1)	FMシンセサイザーによる電子ピアノの音です。ポピュラー音楽に最適です。
E.PIANO 2 (エレクトリックピアノ2)	金属片をハンマーでたたいて発音させる電気ピアノの音です。弱く弾いたときは柔らかく、強く弾くと芯のある音がします。
JAZZ ORGAN (ジャズオルガン)	歯車回転式電気オルガンの音です。ジャズ、ロックなどの音楽でよく用いられます。
PIPE ORGAN (パイプオルガン)	パイプオルガンのプリンシパル系(金管楽器系)の混合音栓の音(8フィート+4フィート+2フィート)です。バロック時代の教会音楽の演奏に適しています。
STRINGS (ストリングス)	広がりある弦楽アンサンブルの音です。ピアノとのデュアルに向いています。
CHOIR (クワイア)	空間に広がる心和む合唱の音です。スローな曲で和音の広がりが得られます。
HARPSICHORD (ハープシコード)	バロック音楽でよく使われる楽器の音です。タッチによる音量変化はありません。
VIBRAPHONE (ビブラフォン)	比較的柔らかなマレットでたたいたビブラフォンの音です。

2 音量を調節する

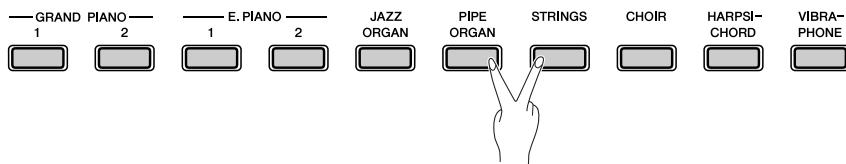
[MASTER VOLUME]スライダー(9ページ)で音量を調節しながら演奏してください。



2つの音色を重ねる(デュアル)

音色を重ねる機能をデュアルといいます。重ねて鳴らすことにより厚みのある音を作り出せます。

1 音色ボタンのうち2つを同時に押して、デュアルに入る



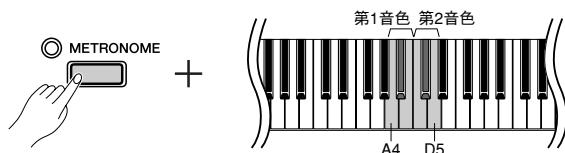
選んだ2つの音色ボタンのうち、左側にある音色が第1音色、右側にある音色が第2音色になります。

第1音色、第2音色は、以下のような設定ができます。

オクターブシフトの設定

音程を1オクターブ上下にシフトさせます。音の響き方が違ってきます。

[METRONOME]ボタンを押したままA4～D5鍵盤のどれかを押します。



第1音色と第2音色は、別々に設定ができます。

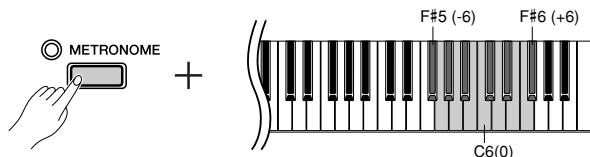
第1音色	A4	-1
	A#4	0
	B4	+1

第2音色	C5	-1
	C#5	0
	D5	+1

音色の音量バランスの設定

片方の音をメインにしてもう片方の音を薄く重ねるなど、2音色の音量バランスを設定します。

[METRONOME]ボタンを押したままF#5～F#6鍵盤のどれかを押します。設定範囲は-6～0～+6(イラスト参照)で設定値が+6に近付くほど第1音色の音量が大きくなります。設定値が0で同音量です。



デュアルのときのリバーブ

第1音色のリバーブの種類が優先されます。第1音色のリバーブがオフの時は、第2音色に設定されているリバーブの種類になります。

2 音色ボタンのうちどれか1つを押して、デュアルを抜ける

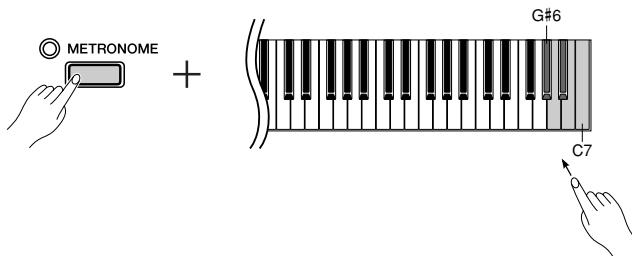
音に残響を付ける(リバーブ)

コンサートホールやライブハウスで演奏しているような残響効果を付けます。以下の4種類の中から設定できます。また、その深さ(かかり具合)を変えられます。

鍵盤	リバーブの種類	説明
G#6	ルーム	部屋の中にいるような響きになります。
A6	ホール1	小さいコンサートホールにいるような響きになります。
A#6	ホール2	大きいコンサートホールにいるような響きになります。
B6	ステージ	ステージにいるような響きになります。
C7	オフ	リバーブはかかりません。

リバーブの種類の設定

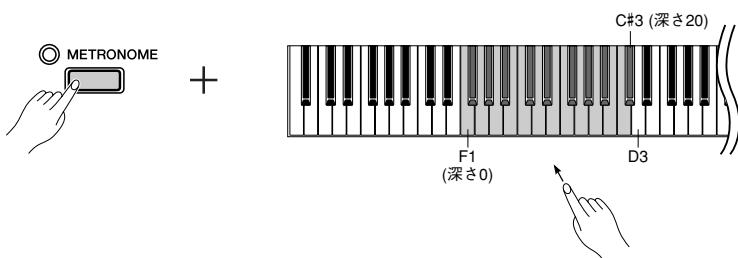
[METRONOME]ボタンを押したままG#6～C7鍵盤のどれかを押します。



リバーブの深さの設定

[METRONOME]ボタンを押したままF1～C#3鍵盤のどれかを押します。

設定範囲：0(効果なし)～20(深さ最大)



右の鍵盤ほどリバーブの深さを深く設定できます。

[METRONOME]ボタンを押したままD3鍵盤を押すと、その音色に最適なリバーブの深さになります。

音色ごとにリバーブの種類(オフも含む)や深さが設定されています。

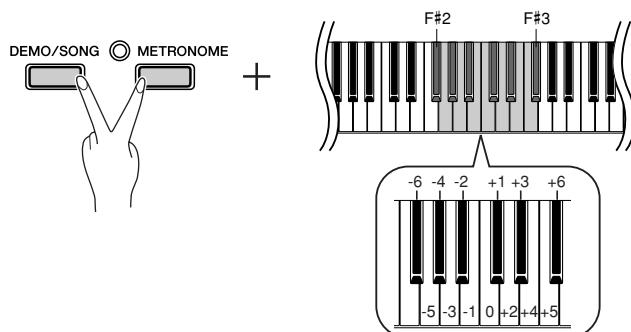
キー(調)を変える(トランスポーズ)

弾く鍵盤を変えずに、ほかの楽器や歌う人の声の高さに半音単位でキー(調)を合わせることができます。この機能をトランスポーズといいます。

たとえばトランスポーズを「+5」に設定すると、「ド」の鍵盤を弾いたときに「ファ」の音が出ることになり、「ハ長調」の弾きかたで「ヘ長調」の演奏になります。

トランスポーズの設定

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままF#2～F#3鍵盤のどれかを押します。



トランスポーズ：移調する
移調：曲全体の音の高さを上げたり下げたりしてキー(調)を変えること。

C3鍵盤を押すと標準の音の高さになります。F#2～B2鍵盤を押すと半音単位でキーが下がり、C#3～F#3鍵盤を押すと半音単位でキーが上がります。

トランスポーズ量
F#2 : -6半音
C3 : 標準の音の高さ
F#3 : +6半音

音の高さの微調整(チューニング)

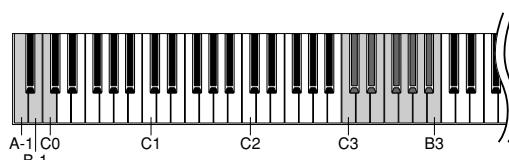
楽器全体の音の高さを微調整する機能です。合奏のときや、CDの再生に合わせて演奏するときなど、ほかの楽器やCDの再生音などと音の高さを正確に合わせたい場合に使います。

音の高さの設定

音の高さを上げる

(約1セント単位。100セント
=半音)

A-1とB-1とC0鍵盤を同時に押したままC3～B3鍵盤のどれかを押します。



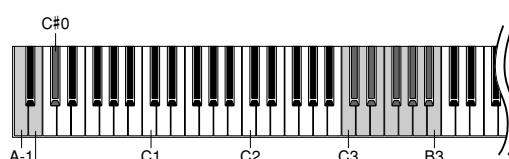
設定範囲：-65～+65セント

初期設定(0セント)ではA3=440Hzになっています。440Hz付近では、1Hz=約4セントです。たとえばA3=442Hzにしたい場合、8回の操作で一番近い状態になります。

音の高さを下げる

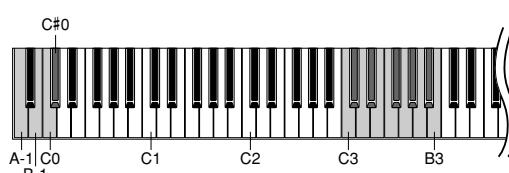
(約1セント単位。100セント
=半音)

A-1とB-1とC#0鍵盤を同時に押したままC3～B3鍵盤のどれかを押します。



初期設定に戻す

A-1とB-1とC0とC#0鍵盤を同時に押したままC3～B3鍵盤のどれかを押します。



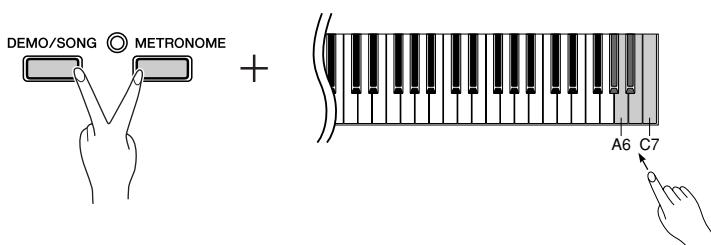
タッチ感を変える

鍵盤を弾く強さに対する鳴る音の音量を設定します。以下の4段階に設定できます。

鍵盤	タッチの種類	説明
A6	フィックス	タッチによる音の強弱は付かず、一定の音量が出ます。
A♯6	ソフト	軽いタッチで大きい音を出すことができます。
B6	ミディアム	標準的なタッチです。
C7	ハード	強いタッチで弾かないと大きい音が出にくい設定です。

タッチ感の設定

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままA6～C7の鍵盤のどれかを押します。



JAZZ ORGAN、PIPE ORGAN、HARPSICHORDの音色ではタッチ感が変わりません。

初期設定：B6(ミディアム)

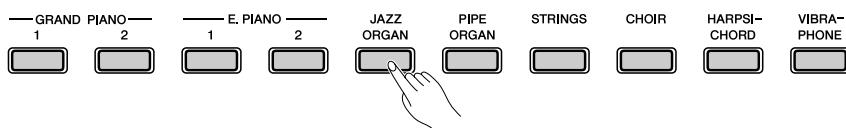
演奏を録音する

楽器本体に自分の演奏を1曲録音できます。

演奏を録音する

1 録音する音色(とそのほかの設定)を選ぶ

音色ボタンを押して録音に使う音色を選びます。



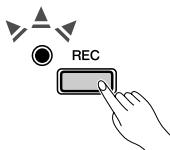
デモ曲やピアノ曲などのソング再生中は録音モードに入ることができません。

必要に応じてそのほかの設定(リバーブなど)も選んでください。

[MASTER VOLUME]スライダーは弾きやすい音量に設定してください。再生のときにも[MASTER VOLUME]スライダーで音量を調節することができます。

2 レコード [REC]ボタンを押して、録音モードに入る

[REC]のランプが点滅します。

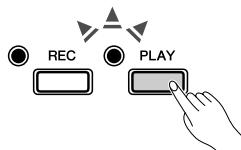


録音を中止する場合は、もう一度[REC]ボタンを押します。

3 録音をスタートする

演奏を始めると自動的に録音がスタートします。または、[PLAY]ボタンを押すと録音がスタートします。

録音中は、[REC]のランプが点灯します。また、[PLAY]のランプが、現在のテンポのタイミングで点滅します。



メトロノームを使う
メトロノームを鳴らしながら録音することもできます。ただしメトロノームの音は、録音されません。

録音されるデータの種類については、22ページをご覧ください。

演奏記憶容量

この楽器に録音できる容量は、65KB(約11,000音符)です。

録音中に記憶残容量が少なくなってきた場合

記憶残容量が少なくなると、[REC]ランプと[PLAY]ランプの両方が点滅します。そして記憶残容量が少くなると、録音が自動的にストップします(それまでの演奏データは録音され、残ります)。

演奏を録音する

4 [REC]または[PLAY]ボタンを押して、録音をストップする

録音をストップすると、[REC]ランプと[PLAY]ランプが点滅し、録音した曲が楽器に自動保存されていることを示します。自動保存が終わると、[REC]ランプが消え、[PLAY]ランプのみが点灯します。

注記

ランプが点滅しているときに電源を切らないでください。ランプが点滅しているときに電源を切ると、曲データが保存されないおそれがあります。

録音したデータはコンピューターに保存することができます。またコンピューターから読み込んで再生することもできます（25ページ）。

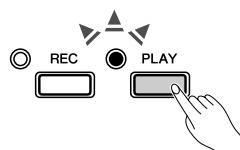
録音(記録)されるデータの種類

実際には、弾いた音や音色のほかにも録音(記録)されるデータがあります。

- ・ノートデータ(弾いた音)
- ・音色
- ・ペダル操作(サステイン、ソフト、ソステヌート)
- ・リバーブの深さ
- ・デュアルの音色
- ・デュアル音量バランス
- ・デュアルオクターブシフト
- ・テンポ
- ・リバーブの種類(オフも含む)

録音した演奏を聞く

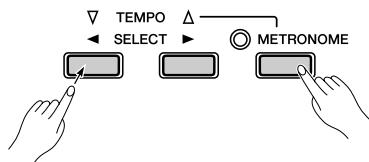
[PLAY]ボタンを押すと、録音した演奏が再生されます。



録音したデータを削除するには
[REC]ボタンで録音をスタートし、何もせず[PLAY]ボタンで
録音をストップすると、録音データがすべて削除されます。

曲の途中から録音し直すこと
は、できません。

[METRONOME]ボタンを押したまま、TEMPO[▽]/[△]ボタンを押すと、再生中の演奏のテンポを変更できます。



[PLAY]ボタンをもう一度押すと、再生が止まります。

録音した演奏データの設定を変更する

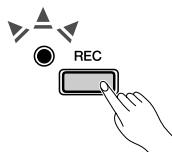
録音を終えたあとでも、演奏データの設定を変更することができます。たとえば、録音したあとで音色を変更して違った雰囲気の曲にしたり、曲を適切なテンポに調節したりすることができます。

設定を変更できるデータ

- ・音色
- ・デュアルの音色
- ・サステイン/ソフトペダルのかかり具合
- ・テンポ

1 レコード [REC]ボタンを押して録音モードに入る

[REC]ランプが点滅します。



2 変更したい項目をパネルで操作して変更します

たとえば、録音した[E.PIANO 1]の音色を[E.PIANO 2]に変更したい場合は、ここで[E.PIANO 2]ボタンを押します。サステインペダルのかかり具合を変更したい場合は、ここでサステインペダルを踏んだままにします。

ここで鍵盤や[PLAY]ボタンを押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

3 レコード [REC]ボタンを押して録音モードを抜けます

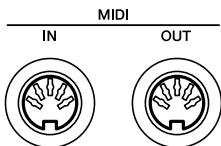
ここで[PLAY]ボタンを押さないようご注意ください。録音がスタートしてしまい、録音済みのデータが消えてしまいます。

ミディ MIDI機器の接続

この楽器には、MIDI端子がついています。MIDI機能を使って他の楽器やコンピューターとデータを送受信することにより音楽の幅を広げることができます。

ミディ MIDIって何？

MIDI (Musical Instrument Digital Interface)とは、MIDI端子を備えたMIDI機器間や、MIDI機器とコンピューター間で演奏データや命令を送受信しあうための、各種送受信データ様式についての統一規格です。MIDI機器間(MIDI機器とコンピューター間)でMIDIデータを送受信することにより、この楽器から外部のMIDI機器の演奏をコントロールしたり、外部のMIDI機器やコンピューターからこの楽器をコントロールしたりすることができます。

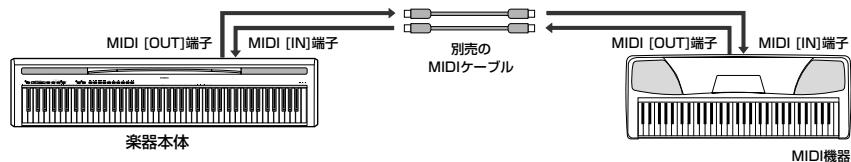


MIDI [IN]MIDIデータを受信する端子です。
MIDI [OUT]MIDIデータを送信する端子です。

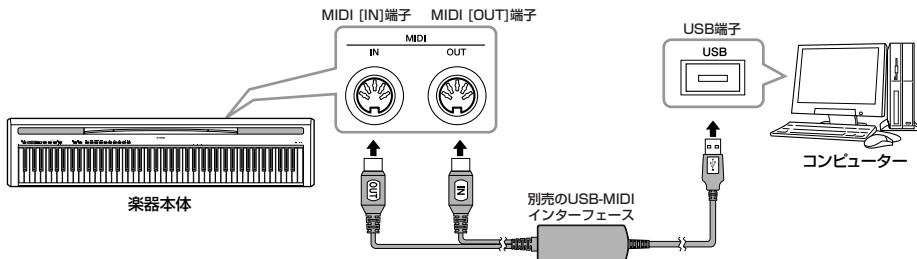
！ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行ってください。
コンピューターと接続するときは、最初にP-95の電源を切り、コンピューター上のすべてのアプリケーションソフトを終了した状態でケーブルを接続し、その後P-95の電源を入れてください。

他のMIDI機器と接続して演奏情報を送受信する



コンピューターと接続してMIDIデータを送受信する



コンピューターと接続する

コンピューターをP-95のMIDI端子につなげば、コンピューターとの間でMIDIデータを送受信できるようになります。

コンピューターのUSB端子とP-95を接続する方法

コンピューターのUSB端子とこの楽器のMIDI端子を別売のUSB-MIDIインターフェース(YAMAHA UX16など)を使用して接続します。

P-95をコンピューターで使用するには、コンピューターにUSB-MIDIドライバーを正しくインストールする必要があります。

詳しくは、USB-MIDIインターフェース機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

MIDI機器の中でも、機種ごとに送受信できるMIDIデータの内容が同じではないため、接続しているMIDI機器間で共通に扱えるデータや命令だけが送受信できることになります。

この楽器で扱えるデータや命令については、データリストの「MIDIインプリメンテーションチャート」をご覧ください。

データリストはヤマハのウェブサイトからダウンロードできます(ページ)。

P-95から音色デモやピアノ50曲のソングデータは送信できません。

MIDI機器の接続には、専用のMIDIケーブル(別売)が必要です。楽器店などでお買い求めください。

YAHAMA MIDIケーブル
MIDI-01(長さ1m)
MIDI-03(長さ3m)
MIDI-15(長さ15m)

P-95を音源として使う場合、P-95にない音色が使われている演奏データは、正しく再生されません。

コンピューターと楽器間でバックアップデータを送受信する

録音したデータなど、楽器にバックアップされたデータは、コンピューターに保存することができます。また、コンピューターに保存したデータをもう一度楽器に読み込んで演奏することもできます。

バックアップデータ

以下のデータは、楽器内部のフラッシュメモリーに保存され、電源を切っても記憶されています。

- ・メトロノームの音量
- ・メトロノームの拍子
- ・タッチ感度
- ・チューニング
- ・自分で録音した演奏データ

バックアップデータのファイル名:P-95.BUP

ミュージックソフトダウンローダーの動作中は、本体の[REC]と[PLAY]のランプが点灯します。

楽器の操作をするためには、ミュージックソフトダウンローダーの画面を閉じて終了させる必要があります。

注記

データ通信中は電源を切ったり、電源プラグを抜き差ししたりしないでください。通信中のデータが保存されないだけではなく、フラッシュメモリーの動作が不安定になり、メモリー内容が電源入/切時にすべて消える可能性があります。

注記

コンピューター上でファイル名を変更しないでください。楽器に転送しても認識されなくなります。

バックアップデータを送受信するためには、下記URLからミュージックソフトダウンローダーをダウンロード(無料)し、ご使用のコンピューターにインストールする必要があります。

<http://www.yamaha.co.jp/download/msd/>

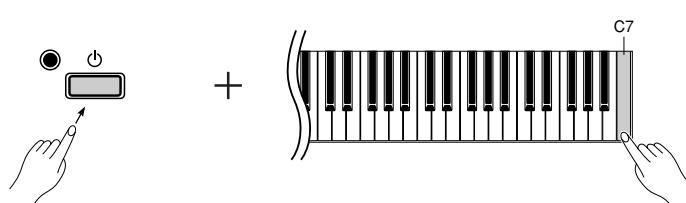
ミュージックソフトダウンローダーを使用するために必要なコンピューターシステムについて上記URLでご確認ください。

データの送受信の方法は、ミュージックソフトダウンローダーについているヘルプ「コンピューターと電子楽器の間でデータを転送する」をご参照ください。

初期設定に戻す

楽器にバックアップされたデータを削除し、初期設定(工場出荷時の状態)に戻すことができます。

一旦電源を切り、右端の鍵盤(C7)を押しながら電源を入れ直します。



この楽器が、何らかの原因で操作不能になったり、誤動作したりした場合は、一旦電源を切り、初期化を行なってください。

注記

初期化実行中([REC]と[PLAY]のランプ点滅中)は電源を切らないでください。

ミディ MIDIに関する設定

MIDIに関する各種設定や操作を行ないます。詳しくは、クリックオペレーションガイドをご参照ください。

ミディ MIDI送信/受信チャンネルの設定

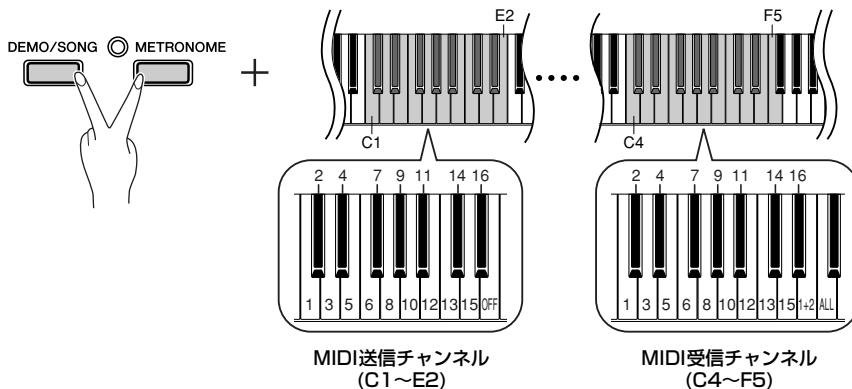
MIDI楽器どうして、演奏情報を送受信するためには送信側と受信側でMIDIチャンネル(1～16チャンネル)を合わせておく必要があります。ここでP-95からMIDIデータを送受信するときのチャンネルを設定します。

MIDI送信チャンネルの設定

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままC1～E2鍵盤のどれかを押します。

MIDI受信チャンネルの設定

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままC4～F5鍵盤のどれかを押します。



デュアルのときの第2音色は
ここで設定したチャンネルの次のチャンネルで送信されます。
(第1音色は、ここで設定したチャンネルで送信されます。)
ただし、上記設定チャンネルをOFFに設定した場合は送信されません。

ALLの場合は

「マルチティンバー」と呼ばれる仕様になっており、外部MIDI機器から送信される複数のチャンネルのデータを、同時に受信します。複数のチャンネルを使って作られた演奏データを、P-95で受信して再生させることができます。

「1+2」の場合は

シーケンサーなどの外部MIDI機器から受信するデータのうち1、2チャンネルのデータだけを受信し、P-95本体で再生することができます。

P-95本体のパネル設定や手弾き音は、送信されてくるプログラムチェンジ(音色切り替え)などのチャンネルメッセージから影響を受けません。

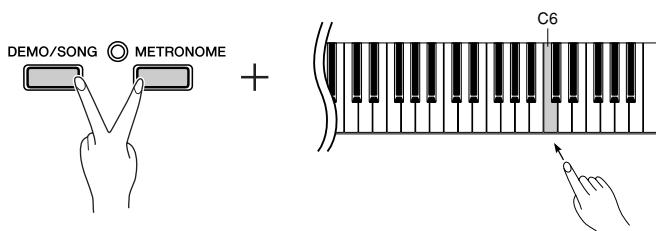
デモ曲/ピアノ50曲の再生データはMIDI送信されません。

ローカルコントロールオン/オフの設定

通常、P-95の鍵盤を弾くと本体内部の「音源」から音が出ます。この状態は「ローカルコントロールオン」と呼ばれます。「ローカルコントロールをオフ」にすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもP-95からは音が出なくなります。一方、鍵盤を弾いた演奏データはMIDI送信されますので、P-95の音を鳴らさずにMIDI接続した外部の音源を鳴らしたいときなどに、ローカルコントロールをオフにします。

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままC6鍵盤を押します。C6鍵盤を押すたびにローカルコントロールオン/オフが設定されます。

初期設定：オン

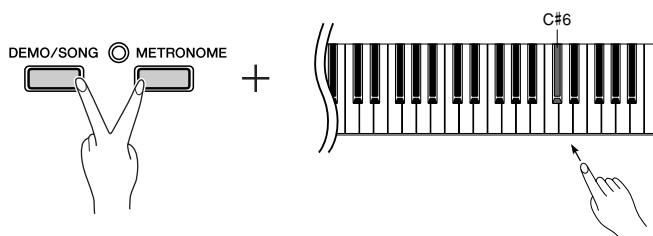


プログラムチェンジ送受信オン/オフの設定

MIDIで送信側の機器から受信側の機器の音色を切り替える情報をプログラムチェンジと言います。たとえばP-95からプログラムチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の音色を切り替えることができます。(P-95のパネル上で音色を切り替えたときに、切り替えた音色のプログラムチェンジナンバーが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたプログラムチェンジをP-95が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データの音色が切り替わります。(このとき鍵盤での手弾き音色は切り替わりません。)

このプログラムチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたい場合)と、できないほうが便利な場合(=MIDI接続した外部機器と音色切り替えを連動させたくない場合)があります。音色切り替えを連動させたい場合はオンに、連動させたくない場合は、オフにします。

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままC#6鍵盤を押します。C#6鍵盤を押すたびにプログラムチェンジ送受信オン/オフが設定されます。



初期設定：オン

各音色のプログラムチェンジナンバーについては、データリストの「MIDIデータフォーマット」をご覧ください。データリストはヤマハのウェブサイトからダウンロードできます(7ページ)。

コントロールチェンジ送受信オン/オフの設定

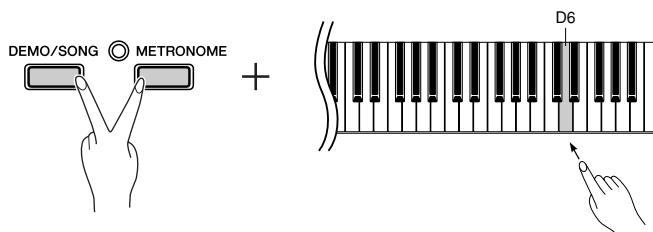
コントロールチェンジデータとは、MIDIデータのうち、演奏表現など(たとえば、サステインペダルの情報)に関するデータのことです。

P-95からコントロールチェンジを送信するとMIDI接続した外部機器の演奏をコントロールすることができます。(P-95でサステインペダルを操作したときなどにコントロールチェンジが送信されます。)逆にMIDI接続した外部機器から送信されたコントロールチェンジをP-95が受信すると、同時に受信しているMIDIの演奏データがそれに反応します。(このとき鍵盤での手弾き音は影響を受けません)。

このコントロールチェンジの送/受信ができたほうが便利な場合と、できないほうが便利な場合があります。送/受信ができたほうが便利な場合はオンに、できないほうが便利な場合は、オフにします。

[DEMO/SONG]ボタンと[METRONOME]ボタンを同時に押したままD6鍵盤を押します。

D6鍵盤を押すたびにコントロールチェンジ送受信オン/オフが設定されます。



P-95がコントロールチェンジとして扱える情報についてはデータリストの「MIDIデータフォーマット」をご覧ください。データリストはヤマハのウェブサイトからダウンロードできます(7ページ)。

初期設定：オン

困ったときは

現象	考えられる原因	解決法
P-95の電源が入らない。	電源アダプターが差し込まれていません(本体側と家庭用コンセント側)。	電源アダプターを本体と家庭用(AC100V)コンセントに、確実に差し込んでください(9ページ)。
P-95から雑音が出る。	P-95の近くで携帯電話を使っています(または呼び出し音が鳴っています)。	P-95の近くでは、携帯電話の電源を切ってください。P-95の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴つたりすると、雑音が出る場合があります。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	[MASTER VOLUME]スライダーが下がっています。	[MASTER VOLUME]スライダーを上げてください(9ページ)。
	ヘッドフォンを接続しています。	ヘッドフォンのプラグを抜いてください。
	ローカルコントロールがオフになっています。	ローカルコントロールをオンにしてください(26ページ)。
ペダルが効かない。	ペダルコードのプラグが[SUSTAIN]端子/[PEDAL UNIT]端子に差し込まれていません。	ペダルコードのプラグを[SUSTAIN]端子/[PEDAL UNIT]端子に確実に差し込んでください(10ページ)。
フットスイッチ(サステイン)のオン/オフが逆になった。 (フットスイッチを踏むと音がカットされ、フットスイッチから足を離すとサステインが効く)	フットスイッチを踏んだまま電源を入れたためです。	電源を切り、フットスイッチを踏まずに、もう一度電源を入れてください。
特定の音域でピアノ音色の音の高さ、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本来の音ができる限り忠実に再現しようとしております。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音の高さや音域が異質に感じる場合があります。	異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	P-95の鍵盤機構は、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されています。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。

仕様

サイズ/質量	寸法	幅	1326mm
		高さ	151.5mm
		奥行き	295mm
	質量		12.0kg
操作子	鍵盤	鍵盤数	88
		鍵盤種	グレードハンマースタンダード(GHS)鍵盤
		タッチ感度	ハード/ミディアム/ソフト/フィックス
音源/音色	パネル	言語	英語
	音源	音源方式	AWMステレオサンプリング
	発音数	最大同時発音数	64
効果	プリセット	音色数	10
	タイプ	リバーブ	○
	ファンクション	デュアル	○
録音再生	録音	録音曲数	1
		録音トラック数	1
		データ容量	65KB(約11,000音符)
		録音機能	○
	再生フォーマット		オリジナルフォーマット
	録音フォーマット		オリジナルフォーマット
ファンクション	デモ/ヘルプ	デモ	10音色デモ+50プリセットピアノ曲
	全体設定	メトロノーム	○
		テンポ	○
		トランスポーズ	○
	チューニング		○
メモリー/接続端子	接続端子	DC IN	12V
		ヘッドフォン	ヘッドフォン端子(標準)×2
		サステインペダル	○ (別売FC3使用時ハーフペダル対応可)
		ペダルユニット	○ (別売LP-5A* 使用時ハーフペダル対応可)
		MIDI	○(IN/OUT)
アンプ/スピーカー	アンプ出力		6W×2
	スピーカー		楕円(12cm×6cm)×2
電源部	電源	電源アダプター PA-150Aまたはヤマハ推奨の同等品	
	消費電力		23W
付属品		保証書、取扱説明書(本書)、ピアノで弾く名曲50選 (楽譜集)、電源アダプター (PA-150Aまたは ヤマハ推奨の同等品)、フットスイッチ、譜面立て、 ユーザー登録のご案内	

仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。

* 別売のペダルユニットLP-5A接続時は、ソステナート、ソフト機能を使用できます。

付
録

別売品のご紹介

ヘッドフォン HPE-30/HPE-150

フットペダル FC3

フットスイッチ FC4/FC5

キーボードスタンド L-85/L-85S

ペダルユニット LP-5A

USB-MIDIインターフェース UX16

USB/パソコンとMIDI機器を簡単に接続できるUSB-MIDIインターフェースです。

電源アダプター PA-150A またはヤマハ推奨の同等品

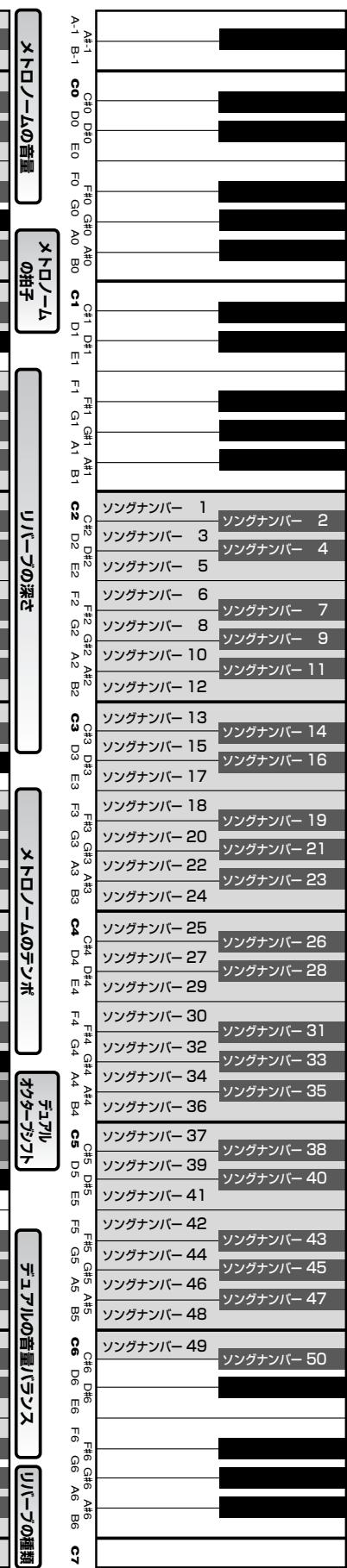
クリックオペレーションガイド

以下 1、2 では [DEMO/SONG] カ [METRONOME] を押したまま、グレーの鍵盤のどれかを押して、デモ曲を選んだり値を設定したりします。
以下 3 では [DEMO/SONG] と [METRONOME] を同時に押したまま、グレーの鍵盤のどれかを押して、値を設定します。

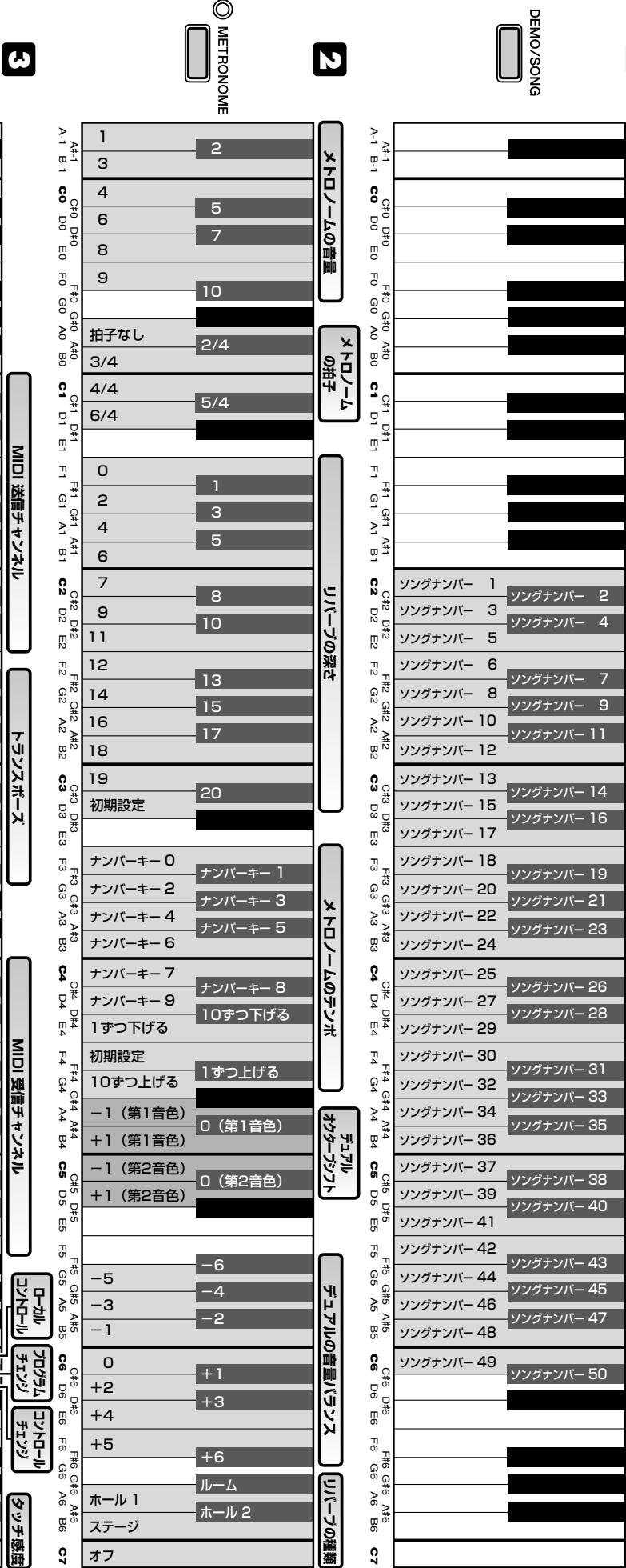
1



2



3



* 音の高さの調整（チューニング）については、19 ページをご覧ください。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。

保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

右に記載の部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点など

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-012-808

*一般電話・公衆電話からは、市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは TEL 053-460-4830

受付時間

月曜日～金曜日 9:00～18:00、土曜日 9:00～17:00（祝日およびセンター指定休日を除く）

FAX

053-463-1127

◆ 修理品お持込み窓口

受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:45（浜松サービスステーションは 8:45～17:30）（祝日および弊社休業日を除く）

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

北海道サービスステーション	〒 064-8543	札幌市中央区南 10 条西 1 丁目 1-50 ヤマハセンター内	FAX 011-512-6109
首都圏サービスセンター	〒 143-0006	東京都大田区平和島 2 丁目 1-1 京浜トラックターミナル内 14 号棟 A-5F	FAX 03-5762-2125
浜松サービスステーション	〒 435-0016	浜松市東区和田町 200 ヤマハ(株)和田工場内	FAX 053-462-9244
名古屋サービスセンター	〒 454-0058	名古屋市中川区玉川町 2 丁目 1-2 ヤマハ(株)名古屋倉庫 3F	FAX 052-652-0043
大阪サービスセンター	〒 564-0052	吹田市広芝町 10-28 オーク江坂ビルディング 2F	FAX 06-6330-5535
九州サービスステーション	〒 812-8508	福岡市博多区博多駅前 2 丁目 11-4	FAX 092-472-2137

● 電子ピアノの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口

ナビダイヤル



0570-006-808

携帯電話、PHS、IP電話からは 053-460-5272

営業時間：

月曜日～金曜日 10:00～18:00、土曜日 10:00～17:00（祝日およびセンター指定休日を除く）

<http://www.yamaha.co.jp/support/>

ヤマハ株式会社

PA・DMI事業部DMIマーケティング部 CL・PKグループ

〒430-8650

静岡県浜松市中区中沢町10-1

ピアノ/キーボードのホームページ

<http://www.yamaha.co.jp/product/piano-keyboard/>

ヤマハマニュアルライブラリー

<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

あなたの音楽生活をフルサポート ミュージックイークラブ

<http://www.music-eclub.com/>

※都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

ヤマハ株式会社

U.R.G., Pro Audio & Digital Musical Instrument Division, Yamaha Corporation
© 2009 Yamaha Corporation

[WT79890] 003POXXX.X-XXB0
Printed in China